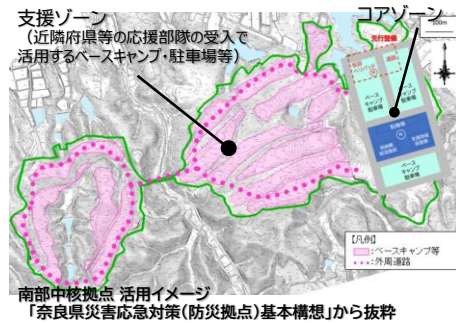


## 目次

1. 計画策定の背景と経緯
2. 計画地の概要
3. 法令規制
4. 計画地周辺の流域
5. 整備の基本方針
6. 造成計画
7. 先行整備計画
8. 整備スケジュール

### 今後の主な検討課題

- コアゾーンの施設配置
- 支援ゾーンの造成
- ライフラインの考え方の整理
- 概算事業費の算出
- アクセスの検証
- 平時の活用方針の検討



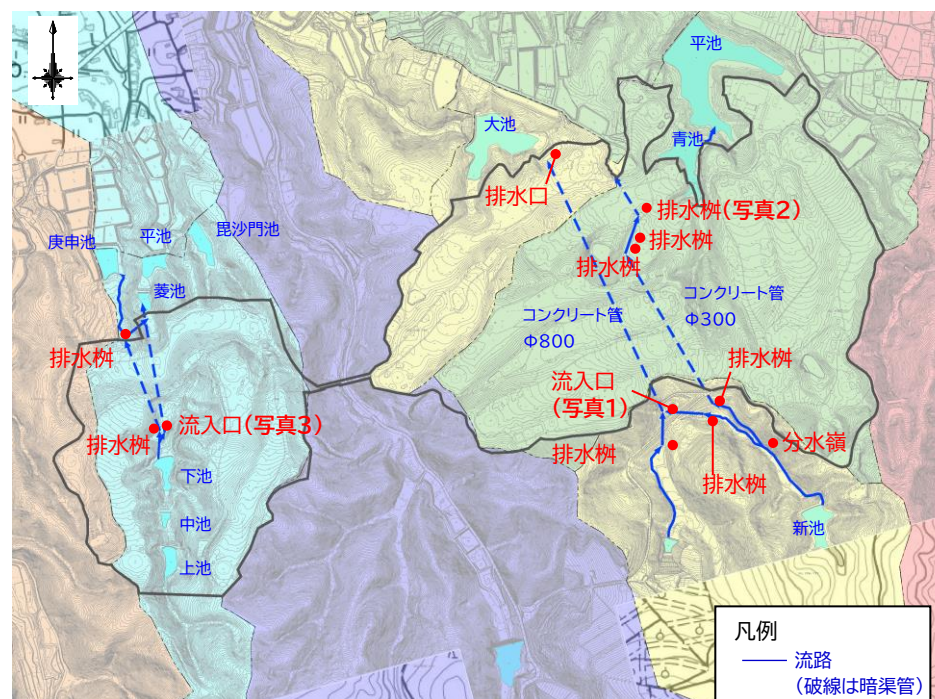
## 3. 法令規制

- 計画地は、都市計画区域(市街化調整区域)、地域森林計画対象民有林、宅地造成等工事規制区域(候補区域)が含まれており、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、砂防三法指定区域、保安林、農用地は存在しない。
- 引き続き、関係機関と協議・調整を進め、各種法令の規制や技術基準等を踏まえて、整備を実施

## 4. 計画地周辺の流域

- 計画地周辺は奈良県と和歌山県にまたがる紀の川(吉野川)流域
- 計画地周辺は大きく6つの流域から構成され、そのうち計画地は4つの流域に属している
- 整備にあたっては流域を変えないことを基本方針とする

### 流域図



- 上記の流域図は地形図やこれまでの調査、地元関係者へのヒアリングから整理
- 基本設計段階までに流域や流路の現地調査を実施する予定



写真1 東エリア内の横断管の流入口



写真2 東エリア内の水路、排水樹



写真3 西エリア内の横断管の流入口

## 1. 計画策定の背景と経緯

- 「災害応急対策(防災拠点)検討部会」において、大規模災害に備えた広域的な防災体制のあり方や広域防災拠点における災害応急対策等について議論を実施。
- 検討部会での議論を踏まえ、本県の新たな防災体制の方向性等をとりまとめた「奈良県災害応急対策(防災拠点)基本構想」を策定する予定。
- 基本構想のうち、県南部の核となる南部中核拠点(五條県有地)の整備を具現化するべく、整備基本計画を策定する。

## 2. 計画地の概要

所在地: 奈良県五條市黒駒町762番外

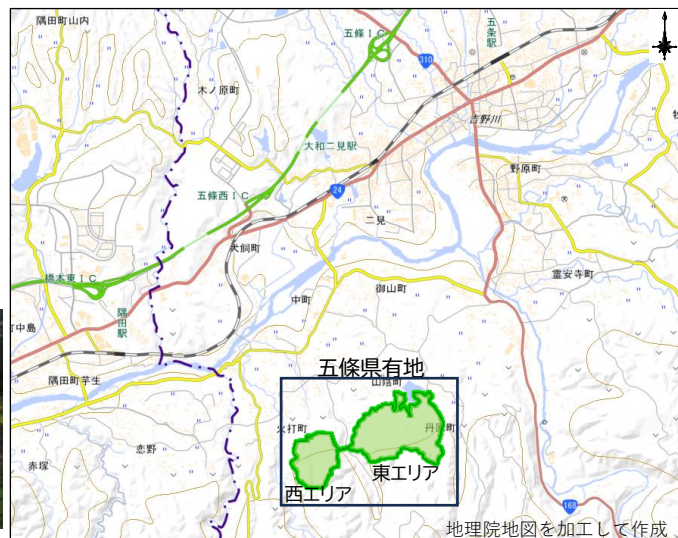
敷地面積: 約64ha(東エリア: 約45ha+西エリア: 約19ha)

- 奈良県の南北方向のほぼ中心地に位置
- 奈良県の大部分が計画地から概ね50km(車で約15分)圏内
- 計画地内は北東から南西方向に標高が高くなり、最大で約70mの高低差
- 谷を挟んで東エリアと西エリアの大きく2つのエリアで構成
- 両エリアを橋梁(設計荷重: T-4.0)が結ぶ
- 京奈和自動車道、国道24号、国道168号に近接
- 東エリアへの既設進入路(市道)が敷地の北東端に接続

### 位置図(広域)



### 位置図



計画周辺の状況(航空写真)



両エリアをつなぐ橋



計画地の状況

## 5. 整備の基本方針

- 南部中核拠点を大きく3段階に分けて整備することにより、順次、防災機能を向上させる。

### 第1段階: 先行整備

ヘリパッドと通路を先行整備し、早期に防災機能の効果発現を図る

### 第2段階: コアゾーンの整備

南部中核拠点の核となる区域(コアゾーン)の施設(約9.5ha)の整備を進め、防災機能を向上させる

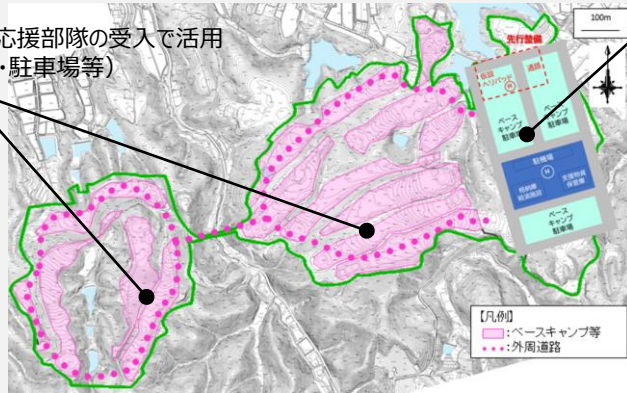
### 第3段階: 支援ゾーンの整備

近隣府県等の応援部隊を受け入れるベースキャンプ(支援ゾーン)を旧ゴルフ場コースの地形を活用して整備するとともに外周道路等を整備し、更に防災機能を向上させる

## 6. 造成計画

### 《これまでの検討》

② 支援ゾーン  
(近隣府県等の応援部隊の受入で活用するベースキャンプ・駐車場等)



南部中核拠点 活用イメージ  
「奈良県災害応急対策(防災拠点)基本構想」から抜粋

① コアゾーン  
(南部中核拠点の核となる区域)

《コアゾーンの機能・規模》

機能	施設名	規模
進出・救助活動拠点	ベースキャンプ 駐車場	7.70ha
物資輸送拠点	支援物資保管庫	1,600㎡
航空搬送拠点 (航空支援拠点)	ヘリパッド 駐機場	1.50ha
	格納庫	500㎡
	給油施設	800㎡
計		9.49ha

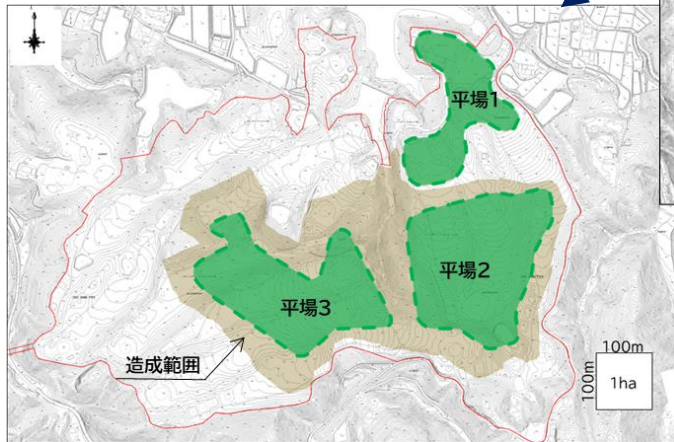
### ■ 基本的な考え方

- 経済合理性の観点から切土・盛土の高さを抑えつつ、切土量と盛土量のバランスを図る
- 東エリア、西エリアごとに切土量と盛土量のバランスを図る

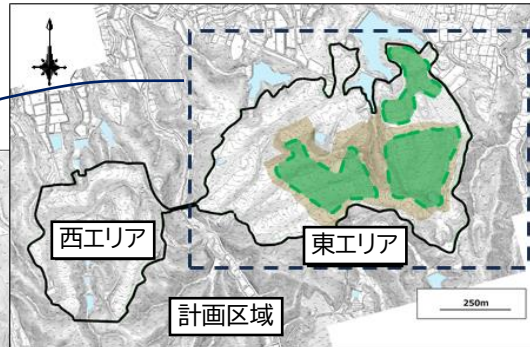
### ■ ①コアゾーン(第2段階の整備)の造成検討

平場1 : 現地形を活かし、必要最小限の切土・盛土を実施  
平場2・3: 切土・盛土により一団の土地を造成

#### ■ コアゾーン造成検討図



拡大

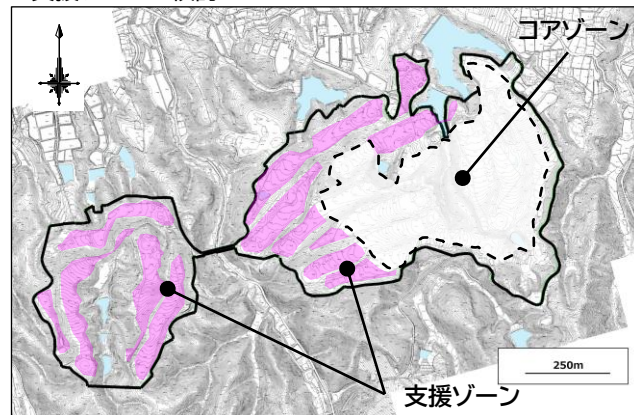


- 早期効果発現のため、現地形を活かして活用できる平場1で第1段階の先行整備を実施
- 今後、第2段階のコアゾーンの施設配置を検討するとともに、**造成範囲を精査**

### ■ ② 支援ゾーン(第3段階の整備)の造成検討

- 第3段階の支援ゾーンについては、五條県有地のコアゾーンを除く部分を対象
- 今後、支援ゾーンについては、コアゾーンの造成範囲の精査を踏まえ、旧ゴルフ場のコース部を活用した造成を検討し、本計画に盛り込む予定

#### ■ 支援ゾーンの検討



## 7. 先行整備計画(令和7年度中に工事着手)

### ■ 整備方針

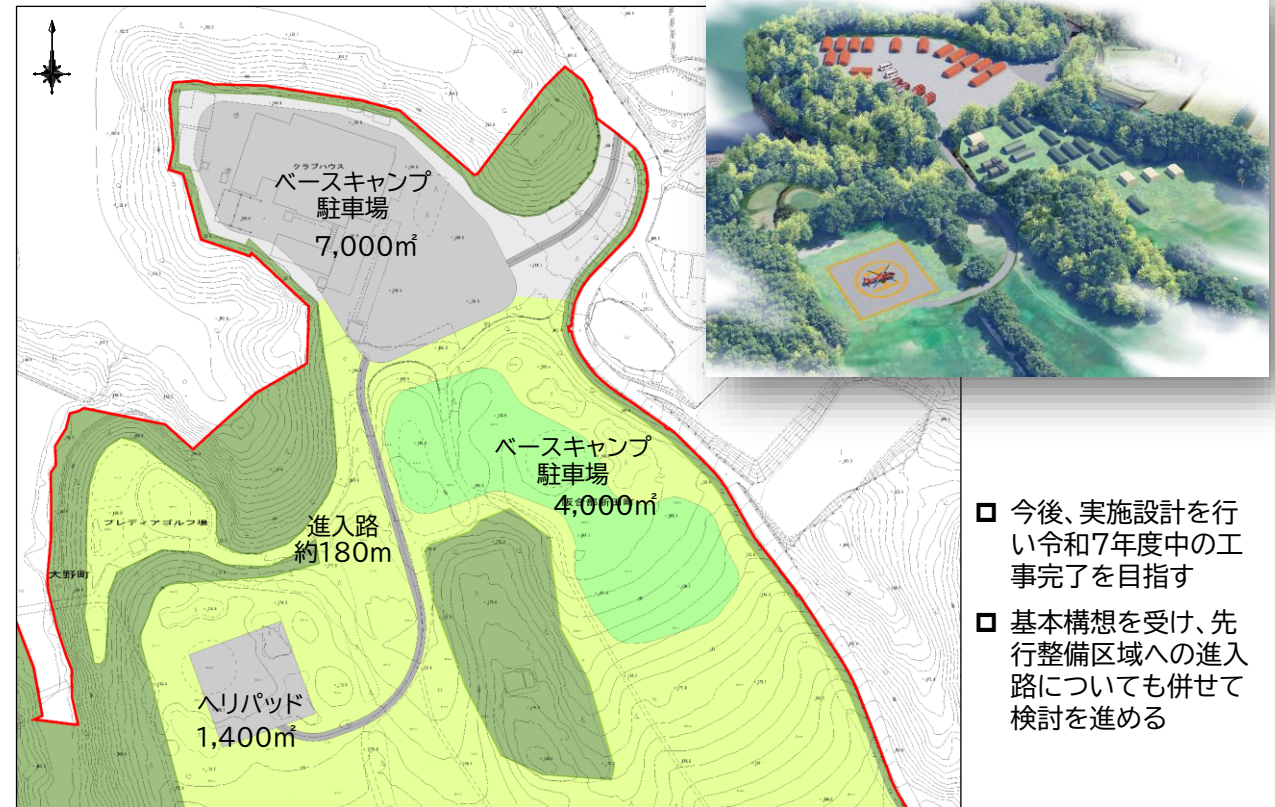
- 旧ゴルフ場のグリーン部分や管理用道路を最大限に活用し、ヘリパッド及び通路を整備することにより、大幅な造成を抑え、令和7年度中に工事着手し、早期に防災拠点としての効果を発現させる。
- 旧ゴルフ場のクラブハウス跡地や平坦なコース部の一部を、ベースキャンプ、駐車場に活用する。

### ■ 整備内容

ヘリパッド	通路	ベースキャンプ・駐車場
約1,400㎡(37.5m×37.5m) ※ グリーン部分を活用して整備	約180m ※ 管理用道路を活用して整備	約1.1ha ※ コース部分・クラブハウス跡地を活用

### ■ 施設配置イメージ図

### ■ 整備イメージ



※ ヘリパッド周辺には制限表面に抵触する物件が無い場合、場外離着陸場(防災対応離着陸場)として活用可能

- 今後、実施設計を行い令和7年度中の工事完了を目指す
- 基本構想を受け、先行整備区域への進入路についても併せて検討を進める

## 8. 整備スケジュール

● 整備状況に応じて、順次供用を想定している

※ 現時点での想定

